

令和4年度事業報告

I 概要

1. 法人の概要

- (1) 設立年月日 平成9年6月18日
寄付行為の変更許可 平成11年6月3日
公益財団法人移行 平成24年4月1日

(2) 定款に定める目的

本財団は、国内におけるバイオテクノロジー関連の研究活動に対し助成するとともに、バイオテクノロジー技術の交流及び普及を図り、国内産業の育成及び発展に貢献することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容

- ① バイオテクノロジー関連の研究活動に取り組む国内の団体又は個人に対する助成
② バイオテクノロジーに関連する研究会及び講演会の開催並びに研究諸団体への講師の斡旋
③ バイオテクノロジー技術の普及及び啓発
④ 前号までに掲げるもののほか、前項の目的を達成するため必要と認める事業

(4) 所管官庁

内閣府 大臣官房公益法人行政担当室

(5) 主たる事務所

長野県長野市大字南堀138-1

(6) 役員に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	現職
理事長	水野 雅義	非常勤	ホクト(株)代表取締役社長
副理事長	藤澤 義章	〃	藤澤義章税理士事務所税理士
理事	高藤 富夫	〃	ホクト(株)専務取締役
理事	高波 謙二	〃	長野朝日放送(株)取締役
理事	石田 治	〃	社会福祉法人治敬会常務理事
理事	宮下 正典	〃	弁護士
監事	上野 紘志	〃	公認会計士
監事	水城 由貴	〃	公認会計士・税理士

II 組織運営

1. 理事会

令和4年度第1回理事会(令和4年5月9日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和3年度事業報告及び決算承認の件
- ② 令和4年度第1回評議員会の招集の件
- ③ 評議員の下坂誠氏辞任に伴う評議員選出の件

令和4年度第2回理事会(令和4年5月27日 ホテル国際 21)

- ① 選考委員・下坂誠氏辞任による選考委員選任の件
- ② 令和4年度きのご観察会開催の件
- ③ 令和4年度選考委員会の開催の件

令和4年度第3回理事会(令和4年10月21日 ホテル国際 21)

- ① 令和4年度奨励金給付事業研究奨励金贈呈式の実施可否の件
- ② 令和4年度奨励金給付事業研究奨励金給付者及び給付金額選考の件
- ③ 令和4年度奨励金給付事業研究奨励金贈呈式の日時の件
- ④ 令和4年4月期～9月期職務執行状況の報告

令和4年度第4回理事会(令和5年3月10日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和4年10月期～令和5年2月期職務執行状況の報告
- ② 令和5年度事業計画(案)承認の件
- ③ 令和5年度収支予算書(案)、正味財産増減予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込みの承認の件

2. 評議員会

令和4年度第1回評議員会(令和4年5月27日 ホテル国際 21)

- ① 令和3年度事業報告及び決算承認の件
- ② 評議員の下坂誠氏辞任に伴う評議員選任の件
- ③ 令和4年度奨励金給付事業の進捗状況の報告

3. 監査会

監査会(令和4年5月2日 ホクト株式会社 会議室)

- ① 令和3年度全期監査

Ⅲ実施事業（令和4年4月1日～令和5年3月31日まで）

1. 令和4年度研究奨励金給付事業

・実施内容

令和4年5月よりバイオテクノロジーを主体とする生物科学に関する調査研究、技術開発に対する助成先を一般公募。募集期間4ヶ月で85件の応募があり、各選考委員による書類審査後、令和4年10月21日に選考委員会を開き、19名に対し助成金総額1,300万円を給付することを内定。同日開催の理事会において最終決定いたしました。

全国各地、北海道から九州までの広範囲にわたる62機関の大学・研究施設から85名の応募となり、内容も大変厳しい選考となりました。研究奨励金給付事業も26回を数えるに至り、受賞者総数も累計467名、総額27,165万円となりました。

研究奨励金助成者一覧については別紙参照

2. 受賞記念講演会

・実施内容

令和4年12月2日、長野市内のホテル国際21に於いて研究奨励金給付事業研究奨励金贈呈式を挙げていただきました。コロナ禍により令和元年以来の開催となりました。平成17年度の奨励金贈呈式より開催しております記念講演を、今回も受賞者を代表して3名の先生方に講演をしていただきました。

また、講演会終了後、懇親会において財団関係者と受賞者の皆様方同士親交を深めていただきましたが、中には今後の共同研究の話題が出るほど盛況な懇親会となりました。

・講演内容

演者：岩谷 勇吾 先生（信州大学医学部医学科先端治療内視鏡学講座 准教授）

演題：バレット食道の発生に関する胆汁逆流の影響とその組成解析－内視鏡所見との対比

座長：勝山 努 選考委員長（丸子中央病院 院長・信州大学名誉教授）

演者：田中 沙智 先生（信州大学農学部 准教授）

演題：信州伝統野菜「野沢菜」における抗ウイルス作用機序の解明

座長：藤田 智之 選考委員（信州大学農学部農学生命科学科生命機能科学コース 教授）

演者：西川 美宇 先生（富山県立大学工学部生物工学科 助教）

演題：腸上皮バリアにおけるビタミンDの生理作用

座長 稲富 聡 選考委員（ホクト㈱取締役 開発研究本部 本部長）

3. きのこの観察会及び鑑定会

・実施内容

1. 日時 令和4年9月27日（火）～28日（水）
2. 開催地 新潟県妙高市 妙高山麓県民の森
3. 参加人数 47名（一般参加者37名、講師1名、財団関係者9名）
（農業・工業学誌及び新聞で参加者を募集）

令和4年9月27日～28日、妙高山麓県民の森においてきのこ観察会を実施いたしました。さわやかな空気のもと参加者は森や遊歩道など思い思いの場所できのこを観察いたしました。

1日目の香風館での勉強会では、慶應義塾大学 生物学教室 糟谷大河准教授を講師に迎え、勉強会を開催しました。スライドやレジュメを使い、きのこの生態上の分類方法についての分かり易い説明から、きのこの生態の不思議さ・環境との共生関係など詳しくお話しいただき、参加者との活発な意見交換もなされました。2日目は、糟谷准教授を中心に鑑定会を行い、イグチ、ベニタケを中心に約108菌種が判別されました。参加者は写真に収めたり、積極的に質問を行っていました。なお、鑑定を行ったきのこは国立科学博物館に鑑定データと共に乾燥標本として寄贈する取り組みも行っております。

今回のきのこ観察会で24回になりますが、同じ季節でも、地域、気候、植生の異なる場所でも、様々なきのこが鑑定され毎年充実した会となっております。今後も継続して交流の輪が広がっていくことを期待したいと思います。

観察会目録に関しては、別紙参照

令和4年12月2日

ホク ト 生 物 科 学 振 興 財 団
H o k u t o F o u n d a t i o n f o r B i o s c i e n c e
令 和 4 年 度 研 究 奨 励 金 助 成 者 一 覧

1. 心筋細胞分裂・テロメア長を調節した心筋再生療法の開発
信州大学医学部再生医科学教室 バイオメディカル研究所
助教 門田 真 (100万円)
2. キノコ含有成分の肺がん転移予防効果とインテグリン発現を介した作用機序の解明
福山大学 薬学部 薬学科 分子免疫学研究室
講師 柴田 紗知 (100万円)
3. 信州伝統野菜「野沢菜」における抗ウイルス作用機序の解明
信州大学 農学部
准教授 田中 沙智 (100万円)
4. マイタケ由来ビタミンDの炎症性腸疾患予防効果に関する研究
富山県立大学 工学部生物工学科
助教 西川 美宇 (100万円)
5. 細胞性粘菌を利用した新規共培養法および非天然型化合物の生産に関する研究
慶應義塾大学 薬学部 天然医薬資源学講座
西村 壮央 (100万円)
6. 認知症と全身性自己免疫疾患のシンクロナイゼーション理解
お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション
特任助教 橋本 恵 (100万円)
7. 神経回路修復手法の開発
島根大学 医学部 医学科 解剖学講座 (発生生物学)
教授 藤田 幸 (100万円)
8. 新奇の哺乳類ホスホリパーゼ酵素群の探索・同定
千葉大学 理学研究院 化学研究部門
特任助教 村上 千明 (100万円)

9. 超好熱菌生体触媒を用いた高効率プラスチック循環システムの構築

京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 生体高分子化学分野

助教 青木 航 (50万円)

10. 診断薬の開発に向けた IgM 抗体の高純度精製法の確立

国立研究開発法人 国立がん研究センター 先端医療開発センター 新薬開発分野

研究員 安西 高廣 (50万円)

11. シスト線虫の温度センサーに着目した寄生制御技術の開発

東京農業大学 生命科学部 バイオサイエンス学科

准教授 伊藤 晋作 (50万円)

12. バレット食道の発生に関する胆汁逆流の影響とその組成解析 —内視鏡所見との対比

信州大学 医学部 医学科 先端治療内視鏡学講座

准教授 岩谷 勇吾 (50万円)

13. エリンギによる腸内細菌の二次代謝産物を介した認知症予防に関する検討

大分大学医学部 内分泌代謝 膠原病 腎臓内科学講座

講師 後藤 孔郎 (50万円)

14. Limnothrix 由来ペプチド修飾酵素の小分子薬剤ゲラニル化への応用

東京大学 大学院理学研究科 化学専攻 生物有機化学講座

准教授 後藤 佑樹 (50万円)

15. 実用的リンゴのゲノム編集技術開発のための培養葉切片へのRN P導入法の確立

岩手大学農学部 植物生命科学科 園芸学分野

教授 小森 貞男 (50万円)

16. 昆虫病原性真菌類（冬虫夏草類）の感染の分子メカニズム解明

宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター

准教授 鈴木 智大 (50万円)

17. 細胞培養の機械化を見据えた平面培養細胞の凍結保存技術の開発

神戸大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 化学工学講座

教授 丸山 達生 (50万円)

18. スミレ属植物における種子の休眠と発芽条件及びスミレ属分類の関係を探る

兵庫県立小野高等学校

教諭 SSH 担当 生物部顧問 藤原 正人 (30 万円)

19. 極限環境下で生息する微小動物（クマムシ）の水調節機構の解明

-ナノスーツ法を用いた形態学的分析-

芝学園芝高等学校

1 年生 溝口 元気 (20 万円)

担子菌門ハラタケ綱ハラタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Agaricales)

Agaricaceae			ハラタケ科	
<i>Lepiota</i>	<i>magnispora</i>	Murrill		ワタカラカサタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>dermoxanthum</i>	Vittad.		チビホコリタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>ericaceum</i>	Bonord.		ヒタチノスナジホコリタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>muscorum</i>	Morgan		和名なし
<i>Lycoperdon</i>	<i>perlatum</i>	Pers.		ホコリタケ
<i>Lycoperdon</i>	<i>pedicellatum</i>	Pers.		アラゲホコリタケモドキ
<i>Lycoperdon</i>	<i>subincarnatum</i>	Peck		アバタチャブクロ
<i>Lycoperdon</i>	Sp. 1			ホコリタケ属の1種
<i>Nidula</i>	<i>niveotomentosa</i>	Lloyd		コチャダイコケ
Amanitaceae			テングタケ科	
<i>Amanita</i>	<i>citrina</i> var. <i>citrina</i>	Pers.		コタマゴテングタケ
<i>Amanita</i>	<i>farinosa</i>	Schwein.		ヒメコナカブリツルタケ
<i>Amanita</i>	<i>fulva</i>	Fr.		カバイロツルタケ
-	-			カバイロツルタケダマシ
<i>Amanita</i>	<i>imazekii</i>	T. Oda, C. Tanaka & Tsuda		ミヤマタマゴタケ
<i>Amanita</i>	<i>muscaria</i>	(L.) Lam.		ベニテングタケ
<i>Amanita</i>	<i>subaliacea</i>	-		和名なし
<i>Amanita</i>	<i>vaginata</i>	(Bull.) Lam.		ツルタケ
Bolbitiaceae			オキナタケ科	
<i>Descolea</i>	<i>flavoannulata</i>	(Lj.N. Vassiljeva) E. Horak		キショウゲンジ
Clavariaceae			シロソウメンタケ科	
<i>Ramariopsis</i>	<i>kunzei</i>	(Fr.) Corner		シロヒメホウキタケ
Cortinariaceae			フウセンタケ科	
<i>Cortinarius</i>	<i>claricolor</i>	(Fr.) Fr.		オオツガタケ
<i>Cortinarius</i>	<i>sanguinea</i>	(Wulfen : Fr.) Fr.		アカタケ
<i>Cortinarius</i>	Sp. 1			フウセンタケ属の1種
<i>Cortinarius</i>	Sp. 2			フウセンタケ属の1種
Entolomataceae			イッポンシメジ科	
<i>Entoloma</i>	<i>conferendum</i>	(Britzelm.) Noordel.		ミノモミウラモドキ
<i>Clitopilus</i>	<i>abortivus</i>	(Berk. & M.A. Curtis) Sacc.		タマウラベニタケ
Favolaschiaceae			ラッシタケ科	
<i>Mycena</i>	<i>acicula</i>	(Schaeff.) P. Kumm.		ベニカノアシタケ
<i>Mycena</i>	<i>galericulata</i>	(Scop.) Gray		クヌギタケ
<i>Mycena</i>	<i>pura</i>	(Pers.) P. Kumm.		サクラタケ
<i>Mycena</i>	Sp. 1			クヌギタケ属の1種
<i>Ramaria</i>	Sp. 1			ホウキタケ属の1種
<i>Ramaria</i>	Sp. 2			ホウキタケ属の1種
Hydnangiaceae			ヒドナンギウム科	
<i>Laccaria</i>	<i>amethystina</i>	Cooke		ウラムラサキ
Hygrophoraceae			ヌメリガサ科	
<i>Clitocybe</i>	<i>clavipes</i>	(Pers.) P. Kumm.		ホテイシメジ
<i>Hygrocybe</i>	<i>conica</i>	(Schaeff.) P. Kumm.		アカヤマタケ
<i>Cuphophyllus</i>	Sp. 1			オトメノカサ属の1種
Inocybaceae			アセタケ科	
<i>Inocybe</i>	<i>calospora</i>	Quél.		アシボソトマヤタケ
<i>Inocybe</i>	<i>rimosa</i>	(Bull.) P. Kumm.		オオキシハダトマヤタケ
<i>Inocybe</i>	Sp. 1			アセタケ属の1種
Lyophyllaceae			シメジ科	
<i>Lyophyllum</i>	<i>decastes</i>	(Fr.) Singer		ハタケシメジ
Marasmiaceae			ホウライタケ科	
<i>Marasmiellus</i>	Sp. 1			ホウライタケ属の1種
Omphalotaceae			ツキヨタケ科	
<i>Gymnopus</i>	<i>densilamellatus</i>	Antonín, Ryoo & Ka		ミツヒダニオイカレバタケ
<i>Gymnopus</i>	<i>peronatus</i>	(Bolton :Fr.) Antonin, Halling et Noordel.		ワサビカレバタケ
<i>Omphalotus</i>	<i>japonicus</i>	(Kawam.) Kirchn. & O.K. Mill.		ツキヨタケ
Physalaciaceae			タマバリタケ科	
<i>Armillaria</i>	<i>gallica</i>	Marxm. & Romagn.		ワタゲナラタケ
<i>Oudemansiella</i>	<i>venosolamellata</i>	(Imazeki & Toki) Imazeki & Hongo		ヌメリツバタケモドキ
<i>Strobilurus</i>	<i>ohshimae</i>	(Hongo & I. Matsuda) Hongo & Izawa		スギエダタケ
<i>Hymenopellis</i>	Sp. 1			ツエタケ属の1種
Porothelaeaceae			ポロテレウム科	
<i>Megacollybia</i>	<i>clitocyboidea</i>	R.H. Petersen, Takehashi & Nagas.		ヒロヒダタケ
Strophariaceae			モエギタケ科	
<i>Hypholoma</i>	<i>fasciculare</i>	(Huds.) P. Kumm.		ニガクリタケ
<i>Hypholoma</i>	<i>lateritium</i>	(Schaeff.) P. Kumm.		クリタケ
<i>Pholiota</i>	<i>flammans</i>	(Batsch) P. Kumm.		ハナガサタケ
<i>Pholiota</i>	<i>squarrosa</i>	(Vahl) P. Kumm.		スギタケ
Squamanitaceae			カブラマツタケ科	
<i>Cystoderma</i>	<i>amianthinum</i>	(Scop.) Fayod		シワカラカサタケ
Tricholomataceae			キシメジ科	
<i>Tricholoma</i>	<i>imbricatum</i>	(Fr. : Fr.) P. Kumm.		アカゲシメジ
<i>Tricholoma</i>	<i>saponaceum</i>	(Fr.) P. Kumm.		ミネシメジ
<i>Tricholoma</i>	<i>sejunctum</i>	(Sowerby) Quél.		アイシメジ
<i>Leucopholiota</i>	<i>decorosa</i>	(Peck) O.K. Mill., T.J. Volk & Bessette		ツノシメジ

担子菌門ハラタケ綱イグチ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Boletales)

Boletaceae			イグチ科	
<i>Boletus</i>	<i>pulverulentus</i>	Opat.		イロガワリ
<i>Leccinum</i>	<i>varicolor</i>	Watling		アオネノヤマイグチ
<i>Tylopilus</i>	Sp. 1			ニガイグチ属の1種
<i>Xerocomu</i>	Sp. 1			アワタケ属の1種
Sclerodermataceae			ニセシヨウロ科	
<i>Scleroderma</i>	<i>aurantium</i>	Pers.		ニセシヨウロ
Suillaceae			ヌメリイグチ科	
<i>Suillus</i>	<i>grevillei</i>	(Klotzsch) Singer		ハナイグチ
<i>Suillus</i>	<i>viscidus</i>	(L.) Roussel		シロヌメリイグチ

担子菌門ハラタケ綱ヒダナシタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Cantharellales)

Hydnaceae			カノシタ科	
<i>Hydnum</i>	<i>repandum</i>	L. : Fr.		カノシタ
<i>Pseudoclitocybe</i>	<i>cyathiformis</i>	(Bull.) Singer		クロサカズキシメジ

担子菌門ハラタケ綱タマチョレイタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Polyporales)

Bondarzewiaceae			ミヤマトンビマイタケ科	
<i>Grifola</i>	<i>frondosa</i>	(Dicks.) Gray		マイタケ
Fomitopsidaceae			ツガサルノコシカケ科	
<i>Tyromyces</i>	<i>chioneus</i>	(Fr.) P. Karst.		オシロイタケ
<i>Fomitopsis</i>	<i>spraguei</i>	(Berk. & M.A. Curtis) Gilb. & Ryvarden		カタオシロイタケ
<i>Fomitopsis</i>	<i>pinicola</i>	(Sw.) P. Karst.		ツガサルノコシカケ
<i>Phaeolus</i>	<i>schweinitzii</i>	(Fr.) Pat.		カイメンタケ
Polyporaceae			タマチョレイタケ科	
<i>Fomes</i>	<i>fomentarius</i>	(L.) Fr.		ツリガネタケ
<i>Ganoderma</i>	<i>tsunodae</i>	(Yasuda ex Lloyd) Sacc. & Trotter		エビタケ
<i>Poronidulus</i>	<i>conchifer</i>	(Schwein.) Pilat		サカズキカワラタケ
<i>Polyporus</i>	<i>brumalis</i>	(Pers.) Fr.		オツネンタケモドキ
<i>Polyporus</i>	<i>alveolaris</i>	(DC.) Bondartsev & Singer		ハチノスタケ
<i>Polyporus</i>	<i>badius</i>	(Pers.) Schwein.		アシグロタケ
<i>Polyporellus</i>	<i>varius</i>	(Pers.) P. Karst.		キアシグロタケ
<i>Polyporus</i>	<i>tuberaster</i>	(Jacq. ex Pers.) Fr.		タマチョレイタケ
Hymenochaetaceae			タバコウロコタケ科	
<i>Pyrrhoderma</i>	<i>sendaiense</i>	(Yasuda) Imazeki		ツヤナシマンネンタケ

担子菌門ハラタケ綱門ハラタケ綱ヒメツチグリ目

Geastraceae			ヒメツチグリ科	
<i>Geastrum</i>	<i>lageniforme</i>	Vittad.		トガリフクロツチグリ

担子菌門ハラタケ綱ベニタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Russulales)

Russulaceae			ベニタケ科	
<i>Lactarius</i>	<i>lignyyotus</i>	Fr.		クロチチタケ
<i>Lactarius</i>	<i>quietus</i>	(Fr.) Fr.		チョウジチチタケ
<i>Lactarius</i>	<i>torminosus</i>	(Schaeff.) Pers.		カラハツタケ
<i>Russula</i>	<i>aeruginea</i>	Lindblad ex Fr.		クサイロハツ
<i>Russula</i>	<i>compacta</i>	Frost		アカカバイロタケ
<i>Russula</i>	<i>delica</i>	Fr.		シロハツ
<i>Russula</i>	<i>densifolia</i>	Secr. ex Gillet		クロハツモドキ
<i>Russula</i>	<i>foetens</i>	Pers.		クサハツ
<i>Russula</i>	<i>grata</i>	Britzelm.		クサハツモドキ
<i>Russula</i>	<i>virescens</i>	(Schaeff.) Fr.		アイトケ
<i>Russula</i>	sp. 1			ベニタケ属の1種
<i>Russula</i>	sp. 2			ベニタケ属の2種
Stereaceae			ウロコタケ科	
<i>Stereum</i>	<i>hirsutum</i>	(Willd.) Pers.		キウロコタケ
Hericiaceae			サンゴハリタケ科	
<i>Hericium</i>	<i>erinaceus</i>	(Bull.) Pers.		ヤマブシタケ

担子菌門ハラタケ綱スッポンタケ目 (Basidiomycota Agaricomycetes Phallales)

Phallaceae			スッポンタケ科	
<i>Phallus</i>	<i>impudicus</i>	L.		スッポンタケ
<i>Dictyophora</i>	<i>duplicata</i>	(Bosc) E. Fisch.		マクキヌガサタケ

子のう菌門ズキンタケ綱ビョウタケ目 (Ascomycota Leotiomycetes Helotiales)

Helotiaceae			ビョウタケ科	
<i>Ascoclavulina</i>	<i>sakaii</i>	Otani		クチキトサカタケ
Leotiaceae			ズキンタケ科	
<i>Leotia</i>	<i>stipitata</i>	(Kuntze) J. Schröt.		アカエノズキンタケ

子のう菌門ズキンタケ綱テングノメシガイ目 (Ascomycota Leotiomycetes Helotiales)

Geoglossaceae			テングノメシガイ科	
<i>Microglossum</i>	<i>rufum</i>	(Schwein.) Underw.		キシヤモジタケ

子のう菌門シロキクラゲ綱アカキクラゲ目 (Basidiomycota Dacrymycetes Dacrymycetales)

Dacrymycetaceae			アカキクラゲ科	
<i>Calocera</i>	<i>viscosa</i>	(Pers.) Fr.		ニカワホウキタケ
Aporpiaceae			アボルピウム科	
<i>Protodaedalea</i>	<i>hispida</i>	Imazeki		ムカシオオミダレタケ
Exidiaceae			ヒメキクラゲ科	
<i>Pseudohydnum</i>	<i>gelatinosum</i>	(Scop.) P. Karst.		ニカワハリタケ

子のう菌門リスチマ目

Cudoniaceae			ホテイタケ科	
<i>Cudonia</i>	<i>circinans</i>	(Pers.) Fr.		ホテイタケ
<i>Cudonia</i>	<i>helvelloides</i>	S. Ito & S. Imai		クラタケ

子のう菌門チャワンタケ綱チャワンタケ目 (Ascomycota Pezizomycetes Pezizales)

Helvellaceae			ノボリリュウタケ科	
<i>Helvella</i>	<i>crispa</i>	Bull.		ノボリリュウタケ

所属科未確定

<i>Gymnopilus</i>	<i>picreus</i>	(Pers.) P. Karst.		チャツムタケ
<i>Dacrymyces</i>	<i>roseotinctus</i>	Lloyd		モモイロダクリオキン

事業報告の付属明細書

特段、記載する事項はありません。